

# 高校生のジェンダーに関する意識調査（第2回）

ジェンダー研究委員会 生徒意識調査班

## 1. はじめに

3年前に本委員会が行った「高校生のジェンダーに関する意識調査」では、

- ・いくつかの項目で明らかな男女差が見られること
- ・一般に女子のほうが男子よりジェンダーフリーな意識が強く現れていること
- ・男女とも共学・別学による意識の差が見られる項目があること

が、見られた（本校紀要第44号〈1998年度〉）。男女共同参画社会が謳われる21世紀に入り、生徒に意識の変化が見られるか、また女子校である本校のジェンダーフリーな教育のあり方は有効か、さらに共学・別学によって生徒の学校への満足度は異なるのか、を検証するために、第2回の調査を試みた。

また、今回は、2000年4月に実施した学校生活への評価に関する調査（「女子校としての本校生徒の意識調査 学校生活への評価とジェンダーフリー意識の涵養」本校紀要第46号〈2000年度〉）を加え、比較検討を行った。

## 2. 調査の実施にあたって

調査にあたっては、前回と同様に本校では1年生（110名）・2年生（112名）・3年生（111名）を対象にし、他校については本校と類似点が多いと思われる、東京都内の国立別学校・共学校3年生を対象とした。調査は2001年12月から1月にかけて行った。3年生については女子188名（うち本校女子111名、共学女子77名）、男子220名（うち別学男子157名、共学男子63名）から回答を得た。

## 3. 調査項目

前回と殆ど同じであるが、学校への満足度と別学（共学）であることの良い点・悪い点を尋ねた。そのため、最後の項目が学校によって尋ね方が異なる。

なおアンケート項目は巻末に掲げた。

## 4. 考察

以上の調査結果から、3年前との比較を中心に考察を試みた。他校との比較に際しては、本校生徒も

3年生のみの結果を用いた（問21はこの範囲外）。

**問3 あなたは、普段、「女」・「男」の違いを意識することがありますか。**

女子に比して男子の意識が強い。だが、女子が3年前に比べて「大いにある」が22.8%から17.0%に減っているのに対し、男子の「大いにある」は42.2%から45.0%と多いまま横ばい（多少増加）である。また、共学と別学の差は「あまりない」まで含めると大きく変わらないが、「大いにある」男子は、共学36.5%に対して別学は48.4%と高い。一方、本校女子と共学女子の「大いにある」はあまり変わらないものの、「多少はある」まで含めると本校が64.9%に対して共学81.8%と、差が顕著になる。また、「まったくない」「あまりない」女子は本校35.1%（←3年前18.3%）に対して共学女子は16.9%（←3年前18.7%）で、以前も性別にとらわれなかった本校生徒が一段とその傾向を強めていることがわかる。前回考察した、女子校という環境が、「女」という意識からの解放をもたらしている傾向がいつそう顕著になっていることがわかる。

**問4 あなたが女性なら「女らしく」、あなたが男性なら「男らしく」ありたいと思っていますか。**

「そう思う」「ややそう思う」合計が、男子76.5%、女子52.9%であった3年前に比べて男子70.45%、女子43.08%と、女子の減少が著しい。ことに共学女子は67.0%から52.0%と大きく下がっている。もともと低い本校女子は41.7%から36.9%と多少ながら更に下がっている。男子は、別学に比して共学が多少減少傾向を見せている。別学男子を除いてのこの傾向は、時代の動きを反映していると考えてよいかも知れない。

**問5 あなたの保護者は、あなたに「女らしく」・「男らしく」あつて欲しいと望んでいますか。**

男子保護者（24.6%←25.0%）に比して、女子保護者（20.7%←30.7%）の意識の変化が著しい。男子保護者の中でも共学は、19.1%と低い。問4と連動するものと考えてよいだろう。

**問6 あなたが理想とする同性・異性の条件をあげるとしたら、何ですか。次からそれぞれ3つまで選んでください。**

理想の男性の条件を男女別に上位5項目を挙げると、以下のとおりである。

女子		男子	
1位	①「気持ちやさしい」 58.0%	1位	①「気持ちやさしい」 45.0%
2位	⑪「責任感がある」 37.2%	2位	③「性格が明るい」 44.6%
3位	⑩「頼りがいがある」 36.2%	3位	⑪「責任感がある」 41.8%
4位	③「性格が明るい」 34.0%	4位	⑤「自分の意見をはっきり言う」 32.7%
5位	⑥「知識や教養がある」 27.7%	5位	⑥「知識や教養がある」 30.9%

女子は多少の変動があるものの大きな変化はない。男子は前回3位であった「気持ちやさしい」が1位に上がったが、割合の上では4%の上昇に過ぎない。むしろ前回1位であった「責任感がある」(51.5%) および⑩「頼りがいがある」(4位37.7%→6位30.0%)と、従来男性の価値と思われがちであった項目の低下が目立つ。ただし別学においては「責任感がある」が45.9%で1位を保っている。

次に理想の女性の条件を男女別に上位5項目を挙げると、以下のとおりである。

女子		男子	
1位	①「気持ちやさしい」 73.4%	1位	①「気持ちやさしい」 70.0%
2位	③「性格が明るい」 53.2%	2位	③「性格が明るい」 56.8%
3位	⑤「自分の意見をはっきり言う」 37.8%	3位	⑫「容姿や体格がよい」 41.8%
4位	⑥「知識や教養がある」 34.0%	4位	⑥「知識や教養がある」 28.6%
5位	⑪「責任感がある」 32.5%	5位	⑦「家事や育児がしっかりできる」 22.3%

男子において、「知識や教養がある」が約9%上がり、「自分の意見をはっきり言う」が約5%下がったほかは大きな変化は見られない。女子は、本校と共学で差異が少ないのに対して、男子は、別学が「容姿や体格がよい」が圧倒的に高く(別学44.6%、共学28.6%)、「自分の意見をはっきり言う」が低い(別学14.0%、共学28.6%)。男子は、依然としていわゆる「女らしい」女性を「理想」と考えているものの、共学校においては「容姿や体格がよい」(←40.0%)が減少し、多少の変動を見せている。

**問7 一般に、女性・男性にとって次のことはどのくらい大切だと思いますか。女性と男性の場合に分けて、それぞれあなたの考えに一番近い記号を記してください。**

(この問いは集計方法が前回と異なるので、前回との比較は行わない)

(1) 自分の意見を主張できること

女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともに多い。ただし、女性にとって「とても必要」とは考えていない男子生徒は、女子生徒より約15%多い。女子は、別学と共学の差が殆どないが、男子は、別学の方が「とても必要」と答えている者が、男性に対しても女性に対しても少ない。

(2) 理路整然としていること

女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともに10%程度多い。男子の別学・共学の差はわずかであるが、女子は、女性にとって「とても必要」が別学54.1%、共学28.6%、男性にとって「とても必要」が別学59.5%、共学45.5%と、大きな差がある。特に女性に求める「理路整然」の必要度は、本校と共学で意識の違いが著しい。

(3) 物事を冷静に判断できること

女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒は、男女ともに5%程度多く、男女差は少

ない。別学・共学の差は、男子においては少なく、女子において本校の方がやや多い。特に女性に対しては「とても必要」と答えている者が10%程度多い。

(4) リーダーシップを発揮すること

女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともに多い。ただし、女性にとって「とても必要」とは考えていない男子生徒は、女子生徒より20%近く多い。別学・共学の差は、男子においては殆どないが、女子においては本校女子が、女性に対して「とても必要」と答えている者が10%以上多い。逆に男性に対して「とても必要」は共学女子の方が、やや多い。

(5) 人の和を大切にすること

男女差、学校差ともに殆どないが、女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともに5%程度多い。

(6) 自立した人間であること

女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともにやや多いが、下に示すように、別学・共学の差が大きい。本校女子は、女性にとっても男性にとっても「とても必要」と考えている者が格段に多いが、別学男子は、どちらも少なく、ことに女性にとって「とても必要」と考える者が少ない。共学の男女生徒の意識差は殆どない（女性にとって「とても必要」本校89.2%、共学女子71.4%、共学男子74.6%、別学男子63.1%。男性にとって「とても必要」本校90.1%、共学女子84.4%、共学男子87.3%、別学男子72.6%）。

(7) 子ども好きなこと

男性より女性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともにやや多いが、男女差が見られる。特に女性に対して「とても必要」と答える男子は50.5%で、女子の36.2%を大きく上回り、意識の差を表している。また、「必要でない」と答える生徒が他の項目より多く、特に本校女子において多い。

(8) 人に負けない気持ちを持つこと

女性より男性にとって「とても必要」と答えている生徒が、男女ともに10%程度多いが、共学男子は、男性にとって「とても必要」54.0%が、女性にとって「とても必要」31.2%を大きく上回り、他と明らかな違いを見せている。一方、共学女子は、女性にとっても男性にとっても「必要でない」と答える者が少ない。

以上を総合すると、女性に対してと男性に対してとでは、「とても必要」と考える度合いがしばしば一致しないが、本校生徒は、その差がかなり少ない。求める人間性や資質が、性別によってあまり異ならない、ジェンダーフリーに近い意識を持っていると言えよう。

問8 「女性の生き方」や「男性の生き方」として、次にあげる8つの意見や考え方について、そう思うかどうか、教えてください。

(1) 女性は現在よりもっと、家庭以外の社会的活動をすべきである。

女子の「そう思う」「ややそう思う」合計80.3% (←85.5%) に対して、男子は57.7% (←47.4%) で、男女差は顕著であるものの、前回に比べて女子は減少し、男子は増加している。

(2) 男性は仕事に専念し、女性は家庭のことに専念するのが望ましい。

女子「そう思う」「ややそう思う」合計5.3% (←6.6%) に対して、男子「そう思う」「ややそう思う」合計25.9% (←33.9%) は、まだ意識に乖離があるものの3年前よりは特に男子生徒の意識に変化が見られ、差は縮小傾向にあることを示している。

(3) 「女性は結婚しなくても、十分に幸せな人生をおくることができる」

女子が「そう思う」「ややそう思う」合計84.0%であるのに対し、男子は67.3%で、ここでも男女の意識の違いが見られる。本校女子の「そう思う」54.1%は他と比べて高いが、共学女子40.3% (←31.4%) の高まりは顕著である。

(4) 「男性は結婚し、家庭を持って、初めて一人前だ」

(3)と連動しているようで、男子の「そう思う」「ややそう思う」合計29.6% (←30.3%) は、女子19.2% (←16.8%) を上回っているが、前回より差は縮まっている。女子の微増が原因であるが、(3)と問い方が同じでないので、適切な比較はできない。

(5) 「男性はもっと家事・育児にかかわるべきだ」

女子の「そう思う」「ややそう思う」合計90.2% (←92.9%)、男子83.2% (←77.6%) と男女とも肯定的な答えが圧倒的で、ことに女子がわずかながら減少しているのに対して男子は上昇している。男子の中では共学92.1%、別学79.6%と差が大きい。

(6) 「女性は家事・育児をきちんと行い、家族に迷惑をかけない範囲で働くのがよい」

男女差が大きく (「そう思う」「ややそう思う」合計女子26.6%、男子47.7%)、男子は別学(49.1%)・共学(44.4%)の差が小さいのに対して、女子は本校(18.9%)と共学(37.7%)の差が大きい。

(7) 「男女ともに仕事も家事もこなすべきである」

「そう思う」「ややそう思う」合計の男女差は5%余りで、前回より約5%減少している。男女とも、別学は共学よりも10%以上低い。

上に見るように(2)、(5)~(7)の回答が違う傾向を示し、矛盾がある。結婚生活がまだ現実感を伴わず、イメージが断片的なためであろうか。それでも、男女の意識差や、別学・共学の意識差は現れている。本校生徒に、男性に依存したり家庭の犠牲になったりせずに、自立した個人として生きていきたいという志向が伺える。

問9 あなたは、もし生まれ変わることができるとしたら、女と男のどちらに生まれたいですか。

男に生まれたい男子の方が、女に生まれたい女子よりも多いことは、3年前と変わらない。男に生まれたい共学男子がやや増加しているが(82.5%←68.4%)、一時的なものか、理由は何か等はわからない(別学男子も72.0%←63.6%と多少増加している)。

問11 日本において男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の6つの場合についてそれぞれ答えてください。

(1) 家庭生活

一律に「男性優位」が下がっている。「女性が優位」がやや上がっているほかは「わからない」・N.Aが減少している。

(2) 職場

男女とも圧倒的多数が「男性が優位」と認識している点、「男女平等」と答えた者は男子に多い点とも、3年前と変わらない。

(3) 学校教育

これも3年前とあまり変わらないが、「男女平等」が多少増え、「わからない」が減少している。ただ、本校女子のみが「男性が優位」が23.4%と20%を超えている。

(4) 政治の場

「男性が優位」と考えている者が男女とも、殊に女子に多い。「男女平等」と考える少数派も男子生徒に多いのはその裏返しと見られる。3年前よりも「男性が優位」(女子89.4%←92.1、男子75.9%←79.1%)は減り、男女平等(女子5.9%←2.5%、男子14.6%←12.7%)が増えているのは、昨今の女性政治家の活躍によるものであろう。

(5) 法律・制度

「男性が優位」と「男女平等」と考える生徒は、男子においてはほぼ同数である。女子は「男性が優位」がやや多い。3年前と大きな変動はない。

(6) 社会通念・慣習・しきたりなど

3年前と大きな変化はないが、「男性が優位」と考える者が、男子で増え(72.7%←61.9%)、女子で減少している(71.8%←77.2%)。

問13 進学を希望する人は、どのような専攻分野を希望していますか。また、その理由を3つ程度選んでください。(3校ともほぼ全員が四年制大学への進学を希望している)

希望する専攻分野を上位5位まで男女別に挙げると、以下のとおりである。

女子		男子	
1位	②社会科学 27.1%	1位	②社会科学 34.6%

2位 ①人文科学	21.3%	2位 ④工学	18.6%
3位 ⑤医学・歯学	14.4%	3位 ③理学	16.4%
4位 ⑥薬学	8.5%	3位 ⑤医学・歯学	16.4%
5位 ⑪芸術	8.0%	5位 ①人文科学	7.7%

女子の希望の1位と2位が3年前と逆転している（社会科学←21.4%、人文科学←28.8%）。男子においても理学（←18.7%）と工学（←16.4%）が逆転し、医学・歯学が上昇しており（←13.1%）、実学志向の高まりを示しているようである。経済不況と関係があるのだろうか。ただ、女性向けと言われる人文科学と薬学には依然として女子の希望が多く、ことに共学女子の薬学希望者は相当多い(13.0%)。

専攻分野を志望した理由を見ると、

#### 女子

1位 ②「専攻分野の勉強が好きだから」	64.4%
2位 ①「専門的な職業に就くための知識・技能・資格を得るため」	60.6%
3位 ⑥「一生続けていける職業に就ける可能性があるから」	34.0%
4位 ③「専攻分野の学科が自分に向いているから」	29.3%

#### 男子

1位 ②「専攻分野の勉強が好きだから」	64.4%
2位 ①「専門的な職業に就くための知識・技能・資格を得るため」	60.6%
3位 ③「専攻分野の学科が自分に向いているから」	35.9%
4位 ④「社会の役に立ちたいから」	30.5%

男子は、1位・2位の割合が大幅に増えているが、傾向としての変化はない。一方、女子はここでも1位・2位が逆転し、割合はどちらも増えている。男女とも、職業を意識して進学選択する者も、純粹に学問への関心から選択する者も、どちらも増えているということのようである。不況だから職業が大事と考える者、先の見通しが立ちにくいから、せめて自分の好きな学問を選ぼうとする者、と、いずれも時代の影響を受けているのかも知れない。

#### 問14 どのような職業に就くことを希望していますか。

女子		男子	
1位 ⑫研究職・大学教員	13.8%	1位 ⑫研究職・大学教員	22.7%
2位 ⑨医師	13.3%	2位 ⑨医師	13.6%
3位 ④外務公務員・国際公務員	10.6%	3位 ①会社員	7.7%
3位 ⑳芸術関係	同上	3位 ②I種公務員	同上
5位 ⑥弁護士・裁判官・検察官	6.9%	5位 ⑰放送・出版関係	5.9%
5位 ⑩薬剤師	同上	6位 ⑥弁護士・裁判官・検察官	4.6%

女子の「研究職・大学教員」が3位から1位に浮上（←9.8%）し、2位だった「放送・出版」が8位に後退した（4.3%←10.8%）。男子は弁護士等法曹関係希望が4位から後退し（←8.6%）、順位は変わらないが研究職・大学教員および医師が約2%ずつ増加している。男女とも専門職志向が依然として強いが、その内訳は多少の変化を見せている。

**問15 職業（就職先）を選ぶ際に重視することは何ですか。次から3つ程度選んでください。（「その他」は除く）**

女子

1位	①「能力・資質を生かせること」	80.3%
2位	②「専攻分野を生かせること」	60.6%
3位	⑦「男女差（性差別）がない、または少ないこと」	27.7%
4位	④「給料がよいこと」	27.1%
5位	③「社会的評価が高いこと」	13.8%

男子

1位	①「能力・資質を生かせること」	82.3%
2位	②「専攻分野を生かせること」	51.4%
3位	④「給料がよいこと」	33.2%
4位	③「社会的評価が高いこと」	21.8%
5位	⑧「家庭と両立しやすいこと」	13.2%

女子は、4位まで順位が変わらないが、1・2位の割合が一段と高まり（①←75.7%、②←55.2%）、前回5位だった「家庭との両立」が9.6%（←18.3%）で半減している。それに対して、男子では「家庭との両立」がわずかながらも増えて（←11.2%）、「休日が多く残業が少ない」が半減している（11.8%←23.1%）。通常、女子が多く選ぶと考えがちな「家庭との両立」が女子において減り、男子で上昇しているのは、昨今の男性の家庭回帰が、少なくとも男子高校生の意識に影響を与えていることを示しているようで興味深い。

**問16 あなたは将来女性の上司のもとで働くとしたら、そのことに抵抗を感じますか。**

男子に抵抗を感じる者がやや多く見られる。「多少は抵抗を感じる」も含めると、男子の中で抵抗を感じる者は22.7%で、前回の25.7%よりわずかながら減少している。時代の変化が男女の役割や関係についての意識変化をもたらしていると見ることができよう。前回見られた別学と共学の差は顕著でない。

**問17 これまで男性のやっていた仕事に女性が進出する傾向を好ましいと思いますか。**

「どちらかといえば好ましい」まで含めて、女子があまり変わらないか若干減少している（94.7%←



96.3%) のに対して、男子は84.6% (←78.0%) と相当の増加が見られる。ことに共学男子は92.1%で女子とさほど変わらない割合である (別学男子は81.5%)。

**問18 これまで女性がやっていた仕事に男性が進出する傾向を好ましいと思いますか。**

「どちらかといえば好ましい」まで含めて、これも、女子があまり変わらないか多少減少している (93.6%←96.7%) のに対して、男子は81.8% (←71.3%) とやはり増加している。共学男子は87.3%で (別学男子79.6%←67.6%)、問17ほどではないが、前回に比して抵抗感は薄らいでいるようである。

17・18合わせて、16と同様、男子の方に明らかな意識の変化が見られる。共学・別学の差はやや拡大している。

**問19 あなたはいずれ結婚しようと考えていますか。**

結婚の希望を持つ者が、男子55.5% (←60.4%)、女子48.4% (←57.1%) と3年前に比べて低下している。特に女子、その中でも本校女子46.9% (←55.0%) の低下が著しい。希望しない生徒は別学 (17.1%←8.3%)・共学 (6.5%←0.8%) とともに女子の増加が見られ、現代の結婚を望まない女性のスタイルが高校生にも影響を及ぼしているかも知れない。男子は、別学 (54.8%←58.3%) と共学 (57.1%←63.3%) との間に見られた差が縮まっている。

また、結婚を希望する者の中で尋ねた望ましい結婚年齢から見ると、男子は、夫年長45.9% (←48.1%)、夫婦同年39.3% (←38.9%)、妻年長10.7% (←6.2%)、と変化しており、年長の頼られる夫像からの乖離を見せつつある。一方女子は、夫年長42.9% (←53.8%)、夫婦同年39.6% (←32.0%)、妻年長0.0% (←3.3%) と変化し、年長の夫を望む者が減少しているものの、年長の妻としてありたいと考える者は皆無になっている。同年齢の夫との対等の関係を望む者が増加しているようだ。

**問20 結婚するとした場合、どのような結婚を望みますか。次の各問いに教えてください。**

(1) 相手に望むことの重要度について、それぞれあなたの考えに一番近い記号を記入してください。

男子より女子の方が「重視する」「考慮する」と答えた者が多い項目は、「経済力」「職業」が圧倒的で、ついで「学歴」「家柄」「家族構成」の順で続く。前回あまり差がなかった「家族構成」を気にかける女子が増える一方、「自分の職業継続への理解」(93.1%←97.5%) が減少し、男子と4%しか違わない。男子の方が「重視する」「考慮する」と答えた者が大幅に多い項目は、「容姿」だけで、前回開きがあった「年齢」は、女子との差が縮まっている。男女差があまり見られなかったものは「家事・育児能力」「職業継続への理解」「宗教」「価値観」である。

妻に「家事育児能力」を求める男子は殆ど変わらないのに対して、夫に求める女子は10%近く減っている (78.7%←88.0%)。また、「自分の職業継続への理解」を望む女子が少なくなっているのに対して男子は多くなっている (89.1%←85.5%)。深刻化する不況の中で、女子は職業生活に明るい展

望を持ちにくく、男子は仕事と家庭の板挟みになることを予想しているためかも知れない。

(2) 夫婦間の役割について、あなたの考えに一番近いものを1つ選んでください。

従来の性別役割分業型の夫婦を望む男子は、①「夫は仕事をして、妻は家事・育児に専念する」17.7% (←23.5%)、②「夫は仕事をして、妻は家事・育児をした上に仕事をする」15.5% (←22.0%)と減少し、③「夫婦とも仕事を持ち、家事・育児は平等に分担する」60.9% (←44.0%)が著しく増加した。女子は、①「夫は仕事をして、妻は家事・育児に専念する」4.8% (←5.4%)、②「夫は仕事をして、妻は家事・育児をした上に仕事をする」9.0%←10.8%、③「夫婦とも仕事を持ち、家事・育児は平等に分担する」81.4%←78.0%で、大きく変化せず、前回見られた別学・共学の差も殆ど見られなくなっている。女子の意識に男子がついて来つつあるととらえてよいだろう。

(3) 職業と家庭の両立について、あなた自身と配偶者への希望を1つずつ選んでください。

男女とも夫の職業継続を当たり前と受けとめている。妻に関しても、職業継続を望む女子が60.6% (←54.4%)、男子38.2% (←26.5%)で、男女ともに増加し、ことに男子の増加が顕著である。男子は、別学と共学でさほど差がないのに対し、女子は本校67.6%に対して共学50.7%で、本校生徒に職業継続への志向の強さを表している。

**問21 あなたは今、女子校（男子校・共学校）での生活に満足していますか。**

総じて満足度が高いが、ことに女子90.4%の満足度が高く「とても不満足」と答えた生徒（3年生）は皆無である。本校女子の方が若干高いが、別学（91.9%）、共学（88.3%）の差はあまりない。男子の満足度は83.2%であり、こちらもわずかに別学が高い（別学84.1%、共学81.0%）。

また、本校生徒を学年ごとに見ると、学年が上がるほど満足度が高くなるのは、前回（2000年度）とほぼ同様である。また、前回（2年生時）に87.9%だった今回の3年生が91.9%に上がっていることから、学年を追うにつれて満足度が高まるものようである。

**問22 女子校（男子校・共学校）として良いと思う点、悪いと思う点を選んでください。**

別学の「良いと思う点」上位5項目を挙げる。

女子

1位	⑨「雰囲気が良い」	73.0%
2位	⑤「友情が深まる」	60.4%
3位	④「身振り、振る舞いに気を使わなくてすむ」	55.9%
4位	⑫「積極的に意思表示ができる」	49.6%
5位	⑪「パワーがつく」	46.9%

### 男子

1位	⑦「イベントが盛り上がる」	65.0%
2位	④「身振り、振る舞いに気を使わなくてすむ」	61.8%
3位	⑥「連帯感が生まれる」	59.2%
4位	⑤「友情が深まる」	54.8%
5位	⑨「雰囲気が良い」	46.5%

別学の「悪いと思う点」上位5項目を挙げる。

### 女子

1位	④「だらしなくなる」	52.3%
2位	⑦「イベントが盛り上がらない」	36.0%
3位	①「異性がない」	27.9%
4位	⑩「異性に頼れない」	4.5%
4位	⑪「パワーがなくなる」	同上

### 男子

1位	①「異性がない」	66.9%
2位	④「だらしなくなる」	40.8%
3位	⑨「雰囲気が悪い」	12.1%
4位	⑩「異性に頼れない」	9.6%
5位	⑦「イベントが盛り上がらない」	8.3%

学校への満足度が高い分、女子の方が「良いと思う」点のポイントが高く「悪いと思う」点が低い。

男女共通項目では、友情のほか、雰囲気の良さや気を使わないですむことが「良い」点として挙げられる一方、その裏返しとも言える、だらしなさが「悪い」点として挙がっている。一方、女子が「良い」点として、積極的な意思表示やパワーなど、ジェンダーフリー意識の涵養に関する項目を挙げているのに対して、男子はイベントや連帯感という、一体感や帰属意識にかかわる項目を挙げている。共学校生徒が、共学としての「悪い」点を殆ど意識していないのに対して、別学では少なからぬ欠点が認識されているようである。にもかかわらず満足度が同程度である（あるいは若干高い）のは、欠点を補って余りある雰囲気の良さ等の魅力があるらしい。共学校生徒の意識は、男女がいるのが自然であるという、一般的な共学校を是とする価値観と同じであり、戦後日本の教育観もこれと同質である。別学は社会的な集団としては不自然であるために、その欠点が意識されつつ、不自然であるからこそ得られるものも大きいと言えよう。

## 5. 終わりに

今回の調査では、

- ・いまだにいくつかの項目で明らかな男女差が見られるものの縮小の傾向にあること。
- ・一般に女子のほうが男子よりジェンダーフリーな意識が強く現れているが、その差も縮小の傾向にあること。
- ・男女とも共学・別学による意識の差が見られる項目がいくつかあること。
- ・本校におけるジェンダーフリー教育は、いくつかの項目で成果を見せていること。
- ・別学・共学にかかわらず女子の方が学校への満足度が高いこと。
- ・別学の生徒は別学としての欠点を感じつつも別学の価値を認識していること。

が、認められた。このような調査は、継続して行っていくことが必要であり、原因分析も社会の動きとも合わせて行っていく必要がある。質問項目を整えて臨みたい。今後の調査に向けて、ご意見・ご指摘を賜りたい。